

キヌーピット便り

二〇一九年八月号

訃報のお知らせ

葬儀施行会社として、改めて故人のご冥福を心よりお祈り申し上げます。 合掌

有限会社 屋久島葬祭

☎42-2941

七月一日以降葬儀施行の御葬家様分です。誤字・脱字等ございましたらご容赦下さいませ。

故三男寺田秀三儀七月二日六十歳の生涯を
とじました。

なお、葬儀は自宅にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

鹿児島県熊毛郡屋久島町一湊三五九番地

- 喪主 寺田 トメ
- 姉 寺田 たや子
- 兄 寺田 市民代
- 義姉 寺田 秀市子
- 外親 寺田 えい子
- 同族 一

故夫田幡信明儀七月六日七十八歳の生涯を
とじました。

なお、葬儀は(南)屋久島葬祭 やすらぎの家
ひらうち(の)里にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

鹿児島県熊毛郡屋久島町平内三六六番地四五

- 喪主 田幡 文子
- 義弟 田幡 ユキ工
- 義弟 田幡 和昇
- 義弟 田幡 隆男
- 義弟 田幡 ヒロ子
- 義弟 田幡 ミエ子
- 義弟 田幡 ムネ子
- 義弟 田幡 義幸
- 外親 田幡 義一
- 同族 一

故母寺田キヨ子儀七月十一日八十六歳の
生涯をとじました。
なお、葬儀は(南)屋久島葬祭斎場さくらにて
執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦二四七八番地七

- 喪主 寺田 満栄
- 三男 寺田 伊織
- 孫 寺田 沙織
- 孫 寺田 伊織
- 孫 寺田 伊織
- 孫 寺田 伊織
- 外親 寺田 伊織
- 同族 一

故妻稲森京子儀七月十四日六十八歳の生涯
をとじました。

なお、葬儀は(南)屋久島葬祭 やすらぎの家
こせだの里にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

鹿児島県熊毛郡屋久島町小瀬田一三五一番地六七

- 喪主 稲森 健二
- 長男 稲森 加代
- 長女 稲森 陽子
- 長女 稲森 正由
- 長女 稲森 裕喜
- 二女 稲森 裕喜
- 二女 稲森 裕喜
- 外親 稲森 裕喜
- 同族 一

故母貴堂ハル工儀七月二十一日九十八歳の
生涯をとじました。

なお、葬儀は(南)屋久島葬祭 やすらぎの家
ながたの里にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

鹿児島県熊毛郡屋久島町永田二七七番地

- 喪主 貴堂 克典
- 長男 貴堂 安子
- 二男 貴堂 妙子
- 三男 貴堂 妙子
- 長女 貴堂 妙子
- 外親 貴堂 妙子
- 同族 一

故母菊永スミ儀七月三十一日九十五歳の
生涯をとじました。

なお、葬儀は(南)屋久島葬祭斎場ブルマージュ
にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

鹿児島県熊毛郡屋久島町安房二六一七番地三六

- 喪主 菊永 千治
- 二女 菊永 千治
- 二女 菊永 千治
- 三女 菊永 千治
- 四女 菊永 千治
- 外親 菊永 千治
- 同族 一

故母上山マサ子儀七月二十五日九十九歳の
生涯をとじました。
なお、葬儀は自宅にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

鹿児島県熊毛郡屋久島町栗生一五三〇

- 喪主 上山 直利
- 長男 上山 直利
- 二男 上山 直利
- 長女 上山 直利
- 二女 上山 直利
- 三女 上山 直利
- 外親 上山 直利
- 同族 一

故母寺田ユキ工儀七月二十七日九十九歳の
生涯をとじました。

なお、葬儀は(南)屋久島葬祭 やすらぎの家
こせだの里にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

鹿児島県熊毛郡屋久島町小瀬田八八番地

- 喪主 寺田 哲雄
- 長女 寺田 幸子
- 長女 寺田 幸子
- 親族代表 寺田 幸子
- 外親 寺田 幸子
- 同族 一

故父岩川藤實儀七月二十七日九十六歳の
生涯をとじました。

なお、葬儀は自宅にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

鹿児島県熊毛郡屋久島町永田一三二五番地

- 喪主 岩川 かずよ
- 長女 岩川 かずよ
- 三女 岩川 かずよ
- 四女 岩川 かずよ
- 五女 岩川 かずよ
- 外親 岩川 かずよ
- 同族 一

株式会社 アムール屋久島

故兄島田政秀儀七月二十日六十九歳の生涯
をとじました。

なお、葬儀は(南)屋久島葬祭 やすらぎの家
ひらうち(の)里にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

鹿児島県熊毛郡屋久島町湯泊四〇九番地九

- 喪主 島田 博仁
- 兄弟 島田 博仁
- 兄弟 島田 博仁
- 兄弟 島田 博仁
- 兄弟 島田 博仁
- 外親 島田 博仁
- 同族 一

ひょうたん

7月初め、鹿児島県内は記録的な大雨に見舞われた。鹿児島市内全域に避難指示が発令されたことは、初めての事だと思ふ。そんな中、始良市に葬儀出席のため、朝一の高速船で出かけた。

10時前、鹿児島到着、レンタカーを借りて、11時半から開式だったので、慌てないように早速始良に向かった。磯あたりで、コンビニが目に入り、トイレに行きたいな、とは思ったのだが、始良まで30分くらいだから大丈夫だろうと、我慢した。

その頃は、雨はそんなにひどくなく、いつもと変わらないうちうち、病院を過ぎたころから、徐行運転になり、最後は動かなくなった。なんだろう、事故かなと思いつながら、カーブを曲がるかなり先まで渋滞の様子が分かった。この渋滞で待つことよりも、もっと深刻な問題があった。

トイレに行きたい、まだ、気になる程度なんだけど、トイレに行きたい。初めは、音楽を聴き気をまぎらわせていたんだけど、なんか身体が暑い。クーラーを強くすると、涼しいのだが、身体が冷えて逆にトイレに行きたい気持ちを増幅させてしまった。だから、クーラーをつけたい、消したり、時には窓を開けたりで、一人じたばた。この渋滞を抜けるには、あとのくらいだらう。

もしもの事をいろいろ考えた。空いたベクトルボックスにすべきなのか、こんな時って、結構出るんだよね、出してみないとか分らないけど、こんな時にビニール袋がない、車のマットにして、あとで水洗いしようか、バックに入っている着替えの服にすべきか、この車内で、これだなという良いアイデアが浮かばない。

車外を見ると、竜ヶ水集落に入るような脇道を発見。ここを入れればトイレ問題解決かなと思いつながら、追い越し車線を走っていた俺は、そのチャンスを利用してしまつた。そのまま徐行していると、堤防沿いに駐車でき、海岸に降りていける所を発見した。ラストチャンスだ、ここしかない、でも待てよ。ここで止まったら、絶対、後続車の運転手は、あいつ、トイレに行きやがったと思われな、そう二度と会うことはない人の気持ちを考えた。で、ここも通過してしまつた。

もう残された道は我慢、ひたすら我慢。よく、高速などで大渋滞発生するけど、女性の方とかどうしてるんだらうな。そんなことを考えながら、始良入口までやってきて、原因が土砂崩れだと分かり通過すると、車の通りが良くなった。さあ、それからが時間との勝負、サッカーというハーフタイム。皆の車の流れからいち早く離れ脇道へ。慌てて車を降りる。すると、身体も先が見え安心したこともあり、筒先へ大量の水が流れ込む。あー限界と同時に、放水開始、あー幸せ。終わりが近づくと、周りの景色が見え、虫の声が心に聴こえてきた。そして、何もなかったような顔をして、葬儀に参列をした。

あーよかった。

お知らせ

ながたの里、只今増設中！

ながたの里を、もっと身近に！もっと便利に！

ながたの里は、ほかの斎場に比べてコンパクトな建物です。現在、永田の皆さんが、葬儀、法事と、よく利用してもらっており、特に、葬儀の際にはたくさんの方が来られ、建物に入りきれず、外で待ってる状態です。

そんな状況を改善するため、只今、増設中です。

完成は、10月初旬になります。

永田の皆さん、いつもありがとうございます！

なかまの里、雨除け屋根設置予定！

中間地区は、一人暮らしの高齢者が多く、移動困難のためなかまの里を開設しました。

また費用面でも、祭壇葬儀代を10万とし、利用者の負担を抑え、利用しやすいようにしております。

また、更に利便性向上のため、近日中に雨除け屋根設置致します。中間の皆さん、葬儀以外でもご利用ください！（無料です）

くりおの里、雨除け屋根設置計画中、実行未定

以前から、雨除け屋根が欲しいと、要望を頂いております。

他の斎場の進行状況で、判断実行したいと思っております。

つよつよ

今年も早いもので、もう8月、暑い夏になった。毎年、歳を重ねるたびに時間の流れを早く感じる。

あーあと少しで49歳だ。若い時は、40代はおじさんだあって、先の話だと思っていたけど、もうその歳を迎えちゃった。確かに、老眼になり、白髪が増え、疲れがとれにくくなった。なー思うんだけど、気持ちとヘアースタイルだけは変わらない。あ、腰回りは重りがついたのを忘れてた（笑）

ヘアースタイルのパーマは、高校2年からかけており、嫁より付き合いが長いのだよね。30年以上前の話となるんだけど、高校1年の頃は、まず坊主だった。1年はみんな坊主、2・3年生は、ロングヘアにパーマをかけている先輩達も多く、とても高校生には見えなかったな。そんな怖い先輩達と、全寮制、先輩達には絶対服従の世界。先生よりも先輩達が言うことが絶対だった。1年の2学期になると、先輩達の許しが出て長髪になった。みんな、朝からジェルやムースをつけてお洒落に時間をかけていた。そう、俺もロングになり、左右は刈り上げ、真ん中から髪を分けて被せる段カットをしていた。今ではとても想像できないんだけどね（笑）

そんなお洒落を楽しむ時間は、長く続かなかった。誰かが、3年の中でもリーダー格の先輩の機嫌を損ねたらしく（おい、1年お前たち、最近態度悪いな、明日までに皆、坊主な）との一言。それから大変、寮のあちこちらで、鳴り響くバリカンの音。友達同士で髪を切る。長くなった髪が落ちると同じように、皆、悔し涙を流した。

鏡に映る、久しぶりの坊主頭。鏡の横には、要らなくなったジェルとドライヤー。

その作業は、夜遅くまで続いた。そして次の朝、天気は快晴。下を向いて登校する1年、そんな姿を見て驚きながらも声を殺し笑っている女たち。今でも、あの日のことは忘れられない。

そして、そんな先輩達は卒業し、俺も2年となり、みんなロングになった。その頃は、俺達は自分達が立ち上げた野球部に入り、高校生球児。ロングのやつもいたけど、俺はパーマをかけシヨートスタイル。月一回、串木野まで出かけては、4000円のパーマをかけていた。そんなある日、パーマをかけ寮に帰ると、入口には泊の先生がいて、声をかけられた。

おい、山野、お前の頭はなんだー
やべーと思いつながら、こや、地毛やがーと反論。急いで部屋に逃げた。我ながら地毛はないよな、だって寮を出て行く時は直毛のツンツン頭なのに、帰ってきたらクリクリ頭だもんない。この後、別にそれ以上のこともなく、謹慎にもならず、その頭で高校野球、高校生活、そして卒業も迎えることができたんだよね。

今では絶対あり得ない話なんだけど。

そんな夢みたいない時代から30年、あれから変わらないヘアースタイル。今の世の中、パーマをかける人が少なくなつた。葬儀社の若い人達に、パーマかけたら楽だよと勧めると、いやい、サービス業ですから、無理ですよ、それに似合わないし、と断られ、昭和の忘れ物と命名され、笑われた。飲み屋に出かければ、飲み屋の女性につまようじをさされたり、プロッコリーと言われたり、歳30代と言えば、30代にはそんな頭の人はいないと笑われる始末。

でも、俺はやめない、パーマかけられるまでかけてやる。床屋さんのためにもやめないぞ。

昭和の忘れ物、今日も健在です。最後に補足ですが、パンチでは、ないですから。アイロンパーマですから、間違えないようお願いいたします。